

令和 6 年 5 月 21 日現在

機関番号：32689

研究種目：若手研究

研究期間：2020～2023

課題番号：20K13913

研究課題名（和文）アフリカの高等教育の地域統合における外部アクターの役割と影響

研究課題名（英文）The Role and Influence of Outside Agencies in Regionalization of Higher Education in Africa

研究代表者

千葉 美奈（Chiba, Mina）

早稲田大学・国際学術院（アジア太平洋研究センター）・その他（招聘研究員）

研究者番号：90822271

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,800,000円

研究成果の概要（和文）：本研究では、アフリカにおける高等教育の地域統合が進展するメカニズムを理解するための研究フレームワーク構築への貢献を目指し、アフリカ域外のアクターの役割と影響に関する調査・分析を行った。成果として、欧州のソフトパワー強化に対するEUの強い関心と、アフリカの大学間のネットワーク構築に対する他の外部アクターの関心の低さは、相互にアフリカの高等教育地域化の取り組みを停滞させ、欧州高等教育圏の拡大につながっている可能性が示唆された。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究の成果は、国内外の学会や研究フォーラムにおける発表をとおして、アジアにおける高等教育の地域統合に関する研究に新たな視座を提供するとともに、アフリカにおける高等教育の質の向上に関して新たな示唆を与えた。また、アジアにおける西洋と非西洋の高等教育システム間の中心・周辺論のアフリカの事例への適用可能性を示した。さらに、公平で包摂的な教育の実現を掲げたSDGs第4目標に沿い、高等教育に関するグローバルな格差の是正に関する課題の解決に貢献する内容である。

研究成果の概要（英文）：In this study, the role and influence of actors outside Africa were investigated and analyzed, with the aim of contributing to the construction of a research framework to understand the mechanisms of regional integration of higher education progresses in Africa. The result suggested that the EU's strong interest in strengthening Europe's soft power and the low interest of other external actors in building networks among African universities may mutually stagnate higher education regionalization efforts in Africa. It also suggested that this combined factors may lead to the expansion of the European higher education area rather than African regional integration.

研究分野：比較教育学

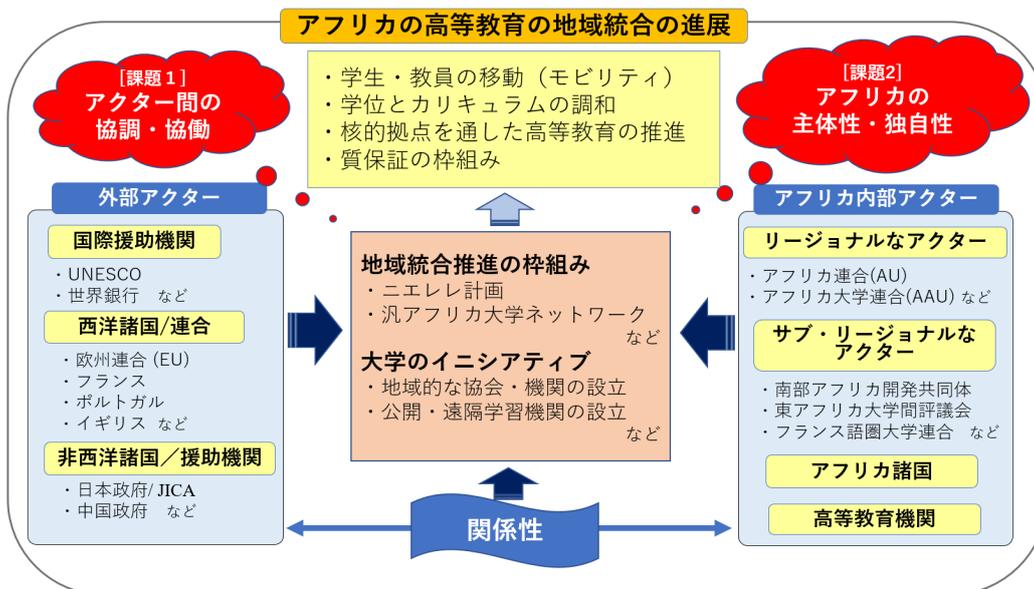
キーワード：高等教育 地域統合 教育改革 アフリカ

1. 研究開始当初の背景

(1) 持続可能な開発目標 (SDGs) において、高等教育のアクセスの拡大に関する目標が掲げられているように、高等教育におけるグローバルな格差の是正が社会的課題の一つとして認識されている。しかし、先進国と開発途上国、都市部と農村部や富裕層と貧困層などの間において、高等教育へのアクセスに対する格差は依然として大きく、個人の希望と能力に応じて高等教育の機会が平等に保障される状態には至っていない。同時に、高等教育の急速な量的拡大は、開発途上国における高等教育の質の低下や、ニーズの多様化への対応の遅れを招いている。

(2) 高等教育の地域統合は、高等教育におけるグローバルな格差の是正に向けた方策の一つである。地域大学の設立や大学間協定・質保証制度の構築を通して、学生や教員が域内の高等教育機関間を自由に移動できるようになり、質の高い高等教育へのアクセスが可能になると考えられているためである。しかし、アフリカにおいては、欧州連合や UNESCO の主導のもとで、ニエレレ計画や汎アフリカ大学ネットワークなどの高等教育の地域統合に向けた域内の政策が推進されているものの、他地域と比べて進展は緩やかであり、実施は限定的である。

(3) 先行研究は、アフリカにおける高等教育の地域統合の主な停滞要因として、高等教育の地域統合に関わる多様なアクターの乱立による効果的な協力・協働体制の欠如や、植民地時代から続く旧宗主国の強い影響、外部機関の資金援助への依存によるアフリカ諸国の自主性や独自性の欠如などを挙げている。一方で、乱立する多様な外部アクターの政策的ビジョンやミッション、政策的優先順位の相違については詳細な調査分析が実施されておらず、各アクターの役割やアクター間の関係性が解明されていない。



2. 研究の目的

(1) 本研究では、アフリカにおける高等教育の地域統合が進展するメカニズムを理解するための研究フレームワーク構築への貢献を目指し、アフリカ域外のアクターの役割と影響に関する調査・分析を行った。本研究の中核的な問いは、アフリカにおいて、多様な外部アクターはどのように同地域の主体性を保ちながら協調し、高等教育の地域統合を効果的に進展させていくことができるのかである。

(2) 本調査結果は、これまでアジアと欧州の事象を念頭に論じられてきた国際高等教育論にアフリカの事例を基にした新たな視座を加え、当該理論の発展に寄与する可能性がある。また、アフリカの高等教育の地域統合の進展に関する新たな知見の提供により、高等教育における地域間格差の是正に寄与し、SDGs 第4目標の達成への貢献が期待できる。

3. 研究の方法

(1) 本研究では、アフリカの高等教育の地域統合におけるアクター間の構図を明確化するため、文献研究によって地域統合のメカニズムに関する理論的理解を強化し、外部アクター (欧州連合、UNESCO、JICA、文部科学省等) のアフリカの高等教育の地域統合に関連する政策文書や国際会議、プログラム報告書、実施中のプロジェクトに関する情報および比較教育学論文等の収集を行い、メタ分析を実施した。また、ユネスコ統計・世界銀行統計・留学生交流数等の二次データおよび

援助機関や政府機関の報告書の分析を行なった。さらに、既存の文献および二次データから情報が得られなかった点に関し、各機関において関連プロジェクトに関わった職員の登壇する国際会議や講演会等からの情報収集を行なった。

(2) 分析結果を基に、外部アクターのアフリカの高等教育の地域統合に関わる思想・政策理念・政策的優先順位に関する比較を行い、アクター間における ①協調と軋轢、②役割、③影響力について整理し、課題の明確化と当該地域統合の推進策に関する考察を行なった。

4. 研究成果

(1) 調査分析の結果として、複数の外部アクター間において、アフリカの高等教育の地域統合を推進する目的には共通点があることが明らかになった。たとえば、欧州連合 (EU) と日本には、アフリカにおける経済成長を促進するための人材育成、貧困削減のための雇用創出、国境を越えた問題に対応するための研究とイノベーションの促進という共通の目的が見られる。また、国際機関である UNESCO は高等教育の価値として、個人の成長、経済成長と社会技術革新、知の共有、研究と発明、個人の経済的安定を挙げており、アフリカにおける地域統合の主目的は社会経済的発展と公平な学びの機会の拡大であることが示唆された。

(2) 同時に、アクター間には異なる中心的な関心事が存在していた。EU は欧州のソフトパワー強化に対する関心が強く、欧州の大学のグローバルな競争力の強化とアフリカの高等教育改革支援を密接に結びつけていた。EU の戦略は、欧州とアフリカ間の戦略的パートナーシップと関係の強化を中心に据え、両地域の高等教育における資格認定の促進、高等教育機関間のパートナーシップの確立、欧州とアフリカをまたぐ学生、職員、研究者の流動性の確保に重点を置いている。一方、日本は、国際協力機構 (JICA) の政策を中心として、アフリカ人材の頭脳流出への対応を含むアフリカの開発ニーズへの応答や、「国際頭脳環流」に重点を置いている。日本の政策においても、日本とアフリカ間の学生の流動性の確保に対する関心は見られるものの、特に JICA の戦略においては、アフリカの主要な工学系大学の教育と研究の能力強化と汎アフリカ大学の発展に重点が置かれている。UNESCO の戦略においては、SDGs 第 4 目標に沿った公平な高等教育へのアクセスの確保が強調されており、すべての人々が質の高い高等教育の平等な機会を得るためには、世界中の教育機関に自由にアクセスできる必要があるという信念が伺える。

(3) 外部アクターの役割と影響力に関しては、欧州の大学の地位と国際競争力の向上に対する EU の強い関心は、アフリカの高等教育の地域統合よりも欧州の高等教育圏の拡大につながる可能性を示唆している。欧州は高等教育の地域統合に関する豊富な経験を持ち、1999 年に欧州諸国によって合意された欧州高等教育圏の形成 (ボローニャ・プロセス) が、しばしば高等教育改革のモデルとして他地域に移転されてきた。アフリカにおいても、高等教育の質の改善を目的とした教育改革の必要性に迫られる形で、アフリカ連合 (AU) 主導でボローニャ・プロセスが包括的に域内に取り入れられた。しかしながら、アフリカにおけるボローニャ・プロセスの実施はアフリカのオーナーシップを欠き、実施しやすい項目が選択的に取り入れられた結果として、アフリカの各大学の欧州高等教育制度への準拠が進んでいた。

(4) 主要な外部アクター (EU、日本、UNESCO など) は前述のような共通点を持ち、各アクターの戦略も相互に排他的ではなく、高度に関連し合っている。しかし、戦略の背後にある EU による欧州のソフトパワー強化に対する強い関心と、他の外部アクターにおけるアフリカの大学間のネットワーク構築に対する優先度の低さは、相互にアフリカの高等教育地域統合の取り組みを停滞させる要因となっている可能性がある。また、欧州高等教育圏の拡大による新たなグローバルな格差や欧州と域外の大学の中心一周辺化の構図につながっていく危険性を示している。

(5) 本研究の成果は、国内外の学会や研究フォーラムにおける発表をとおして発信した。結果として、国内で進んでいるアジアにおける高等教育の地域統合に関する研究に対し、アフリカの事例からの新たな視座を提供した。また、Altbach (1989) が従属論・新植民地主義の観点から提唱した、アジアにおける西洋と非西洋の高等教育システム間の中心・周辺論のアフリカの事例への適用可能性を示した。本研究の成果は、公平で包摂的な教育の実現を掲げた SDGs 第 4 目標に沿い、高等教育に関するグローバルな格差の是正に関する課題の解決に貢献する内容である。

<引用文献>

Altbach, P. and Selvaratnam, V. eds. (1989), *From Dependence to Autonomy: The Development of Asian Universities*, Kluwer Academic Publishers, Dordrecht, the Netherlands.

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計0件

〔学会発表〕 計5件（うち招待講演 1件 / うち国際学会 1件）

1. 発表者名 千葉美奈
2. 発表標題 Influence of Japan and Europe on Regionalisation of Higher Education in Africa
3. 学会等名 EU-Japan Forum 2023 (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 千葉美奈, ラジヤイ麗良
2. 発表標題 欧州外におけるボローニャ・プロセスの普及 - 中央アジアとアフリカの事例研究 -
3. 学会等名 日本比較教育学会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 千葉美奈
2. 発表標題 アフリカにおける高等教育の地域統合と外部アクター
3. 学会等名 アフリカ教育学会 第27回大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 千葉美奈
2. 発表標題 Higher education regionalisation in Africa: The role of EU and Japan
3. 学会等名 アフリカ教育学会 第29回大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Mina Chiba
2. 発表標題 Regionalization of higher education and student mobility: Implications from the case of Africa
3. 学会等名 The 5th Public Diplomacy Forum (招待講演)
4. 発表年 2020年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関